「出会い」を大切に

学習院大学OG 春日由実さんインタビュー

今年も学習院の桜が満開の季節を迎え、新たな年度がスタートしました。キャンパス内にあふれる新歓活動のにぎやかな声を背に、新入生の皆さんはさまざまな期待に胸をときめかせていることでしょう。そんな皆さんに向けてのお話を、現在フジテレビアナウンサーとして活躍する、本学OG春日由実さんに伺いました。春日さんの学生時代の体験や現在のお仕事の話など、新生活の参考にしてみてください。

快活なあいさつ。親しげな笑顔。さすが、海外で長く生活してきただけある、随分アカぬけた人、といった第一印象である。しかしそれとほうらはら感からインタビューは始まった。

「中学・高校の長い間になるアメリカでの生活で、言葉が通じず自分の気持ちが伝えられない場面が何度もあった。そんな時友人が、『由実の名前の発音は英語ではyou&meなんだ、だから由実は一人じゃないよ』って。これはすごく嬉しかったですね。その言葉は私にとって、心の支えになりました」

この話のように、春日さんは「you&me」の人生を歩いている。彼女の人生のキーワードは『出会い』にあるそう だ。

「遊んだ」学生時代

「you&me」を支えに

出会いを大切にしたいという春日さん。学習院ではどんな出会いを体験してきたのだろう。学生時代を振り返ってもらった。

「日本での友達が少なかったから、大学とにかくたくさん、いろんな人に出会いたい、そして、いろんな物の考えを学ぼうと思ってたの。そういう意味では遊んでたかもしれない。だけど、振り返ってみたらたくさんの人に出会っていた時期だったと思う」

そんな数多の出会いの中で、とりわけ大きな影響を与えたのは、映像作品の製作を学ばせるGBC（学生放送局）との出会いだった。当時副委員長を務めた春日さんは、大学三年の学園祭で引退するまで、彼女の全てを部の仕事に捧げてきた。

「学生時代は自分の好きな人とじゃ付き合わないっていうあるでしょ？でも、この人よく知らない、どういう人なんだろうって思う人たちとも一緒に活動していくと、遊ぶ一面が見られたりして、かっこよいっていうと、一緒に物をつくっていくとその人のこともだんだん好きになる。だからGBCの番組を作るのは何よりも頑張ってました」

人を好きになるために頑張り、人を好きになろう努力している春日さんだからこそのコメントであろう。

「アナウンサーを志望したのは、GBCのメンバーが『由実はズ前で話してるウンサーに挑戦してみたら』とおっしゃったのがきっかけ。そのメンバーたちとは会えないなったら今でも付き合いがあって、精神的に支えてくれる友達や、自信を持たせてくれる友達、また、アナウンサーとしての春日由実ではなく、人間としての春日由実にアドバイスしてくれる友達がいる。それはありがたいことですね、本当に」

周囲に囲まれたという春日さん。彼女の、人が好きだという思いと、周囲に恵まれたことを感謝できる人間性とが、春日さんの周りの人々を魅了してきたのではないだろうか。

アナウンサーとして

イキイキとした口調、明るい笑顔からは想像もつかないほどハードな仕事をこなしていくアナウンサー、春日さん。インタビュー当日も、また夜明け前の三時起きだったとか。春日さんの元気の源は？　との質問に、まだ予想外な答えが返ってきた。

「私、元気でもないし、立ち直りも早くないよ。さっきの相づちのタイミング悪かったなとか、こうすれば視聴者はもっとわかりやすいだろうなとか、毎日悩む、失敗もする。失敗したらトイレで泣くんですよ。でも、その失敗はもう明日はこれない自信もある」

意外な事実を語ってくれた、その姿に等身大の春日さんを見せてくれた気がした。その後、優しさや、親しみやすさが前面に出る春日さんが、一変して引き締まった強い顔を見せる。

「ひとつの番組作るのに、当人以上が関わっていて、制作や仕込みにディレクターやADが何日間も苦労して、私も一緒に取材に加わってやっと出来上がる。それを伝えてくれと、最後のステージをアナウンサーは託されるのだから、一番いい状態でやるのが当たり前。だからどんなに辛いことがあったとしても、画面に出ている時は輝いていたい」と語った。こういった仕事に対する熱意が、春日さんのアナウンサーとしてのプロ意識を支えているのかもしれない。

海外生活が長く、日本語は中途半端だったという春日さん。そんな彼女にとってアナウンサーになるということは、日本語のプロになるということであった。

「それでもある程度大きな壁にぶつかってみたい。これはフジテレビ就職の一次面接での言葉だという。今でもこの気持ちを忘れずにいる、春日さんの勇気と覚悟に圧倒される。また『やはりわからないことが多いので、英語、日本語、漢和辞書をいつも所持してます』とのこと。辞書を所持しているのは、フジテレビ春日さんだけだそうだ。

人一倍のプロ意識を持ち、まめな努力を重ねてきたからこそ飛躍を遂げようとする春日さん。今後の目標を尋ねたところ、

「信頼感のあるアナウンサーになりたい。取材の時も春日さんだから話します」

よっていうのは一番の褒め言葉。視聴者にも春日の言葉だから信じようと言われるアナウンサーになりたいですね」

後輩たちへ

最後に学習院の学生へ、先輩としての春日さんから貴重なアドバイスを頂いた。

「学生時代は、自分が一番輝けるところを探すべきだと思う。そして、その輝きに気づいてくれる人に出会うことも大切。時間的にも気分的にも、解放感があって一番自由な時だと思うから、恐ればすに何でもやってほしい。フォローしてくれる人や友達に囲まれている瞬間に何でもやっておいたほうがいいですよ」

終始、飾らず等身大で語ってくれた春日さん。彼女だけが放つ輝きは、よき人との「出会い」を経て、「一生懸命」生きる姿勢から成だれているのではないだろうか。

取材・構成　北岡亜希子　斉藤陽子　中野弘章　水田亜紀子　島津悠衛
写真撮影　フジテレビ
取材協力

プロフィール　春日由実（かすがゆみ）
一九七四年二月二十五日生まれ　兵庫県出身
一九九七年本学文学部英米文学科卒、同年フジテレビ入社。『コレで変ですか!』の進行、『となりのコロロ』の司会を経て、現在『ビンゴタネル』のリポーターなどで活躍中。

お詫びと訂正

前号（第一六二号）の一面・文化部常任委員会の役員改選に関する記事において、「副委員長　伊東真生（商二）」とありましたが、「副委員長　伊東真生（法二）」の誤りでした。伊東さんをはじめ、関係者の皆様には深くお詫びを申し上げるとともにここに訂正いたします。（編）

明窓浄机

「あと二年も学生か」。自分で選んだそう思った日と大学の往復を繰り返し、休日はバイトか遊びの典型的な過ごし方。そんな生活に慣れがさしていた▼就いてた仕事をやめちゃって、でも春から大学に行くの！美容師の国家試験が近くて、春休みに再会した友達は口々に現在を話し始めた。大学生の私とは異なる彼女の自問▼世界がある日を境に変わっていく過程を目の当たりにした。驚き以上に彼らが羨ましかった。自分の道を自分で作って歩いている。私にはそう見えただけかもしれないやっぱり▼それに比べて私は何をしているんだろう？考えても答えはだけにこんな言葉をつぶやいていた。『モラトリアムだな』▼二年前、自分の将来を決められず、大学生になる時期を得た。そして、多くの選択肢が転がっている道で、可能性を探ろうとした。『大学生』という肩書をおおだけで社会の責任や義務を免れているだけだ。なのに楽しいことばかりに気を取られ、肝心なことを忘れていた。ただからこそ、同じ年齢で将来を見据えている彼らに会って、不安を感じたのだ▼大学生活をすでに折り返し地点。今からできるのは、残された智学期間を無駄にしないこと。その間に私なりの道を見つけられたら、大学生活よかったなと心から思えるだろう。（編）

学習院大学新聞
発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区目白　1丁目5番1号
電話（3986）0221内線2607
http://www.gakushuin.ac.jp/ press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　大谷　聡
年間500円

芳林堂書店 BOOKS HORINDO
駅前ブックセンター　03-3984-1101
池袋本店　03-3981-0018
高田馬場店　03-3984-0241
荻窪店　042-525-5505
大宮店　048-652-5358
所沢店　04-2923-4946
所沢西武店　04-2921-2661
所沢駅前店　047-478-3737
東武東上線志木店　048-473-1131
京王線調布店　042-481-0065

2 3 学内マップ
暖めば本当の学習院が見えてくる、「学生生活お助けマップ」は、あなたの強い味方です。

紙面紹介

4 グルメマップ
目白の街は、実は隠れた名店ろい。今回は、ちょっとせいたくなランチを楽しめるお店を紹介してみました。

お知らせ

春日由実さんのサイン色紙を二名様にプレゼント。住所、氏名、学籍番号、本紙への御感想を明記の上、ローン前　掲示板前などお近くのアンケートボックス、または電子メールで『press@gakushuin.ac.jp』まで。締め切り四月末日

体験主義

海外格安航空券 5月出発（往復）
ロンドン…68,000円～
ニューヨーク直行便…60,000円～
バンコク…48,000円～
シドニー…53,000円～

アジア冒険の旅「イントレピッド」
どんよりと湿気を含んだ重い空気、匂い、そしてそこに住む人々…アジアには冒険心をくすぐる魅力がたくさん。世界中から集まる参加者12名で現地で生活する人とほぼ同じ視点で文化を肌で感じる旅はいかが？

旅行に行こうと思ったら…　http://www.statravel.co.jp　無料資料送付中!!

出会いふれあうバスの旅「コンチキツアー」
世界中から集まる旅仲間50人と、バスで和気藹々と賑やかに旅をするツアー。ヨーロッパ周遊8ヶ国、アメリカ大陸横断、オーストラリア縦断…様々な国と地域での交流が魅力！

個人語学研修&留学プログラム
「英語とコンピューターは必須！」。最近の就職トレンドとして耳にする言葉。学生だけにある特典「時間」を有効に使って海外語学研修、困難になる一方の就職に向けて、まずは英語力を身につけよう！

海外へ行く学生の必需品 (ISIC)国際学生証
ISICは世界90ヶ国以上で発行されている国際的な学生証明書です。様々な施設、期間で学生としての割引を受けることができます。
■学生証のコピー1部
■証写真1枚（縦3.3cm×横2.8cm）
■発行手数料 1,430円
即日発行
㈱エスティーエートラベル
池袋
TEL:03-5391-2922
FAX:03-5391-2273
Email:iwp@statravel.co.jp
〒171-0022　東京都豊島区南池袋1-16-20
ぬかりやビル7F
東映大正堂前所行車32分・有楽町線池袋駅徒歩5分
オームスタイリアン・東武王子駅徒歩8分
URL:www.statravel.co.jp
STA TRAVEL
Experience is Everything
JR・地下鉄（丸の内線・有楽町線）池袋駅徒歩1分

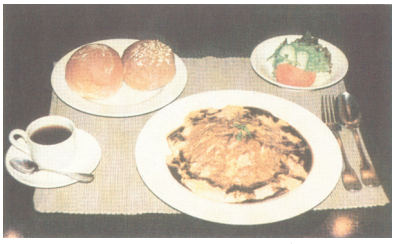
子供から大人に

新入生諸君、学習院大学へようこそ！と思われますが、急速の進捗バブル、年度が明けると、実感なき学生たちの事務職員である教務部の職員が、学生の皆様の学生生活を支援します。教務部の職員として、教務課と入学課、ならびに、学部の教務課、大学院教務課、の四部局の職員、西三号館の事務職員、四部局の職員として、実際の仕事は学生部担当に、学生部のスタッフの事務職員となります。教務課入学課の職員は、学生にとって重要なガイダンスの運営を担当します。窓口では学生の皆様の学籍の管理、成績、卒業、入学関係の事務、教務課のスタッフは、学生の皆様の教務関係の問合せ窓口、学部の教務課、大学院教務課、の窓口、学部の教務課、大学院教務課、の窓口、西三号館の教務課、の窓口、四部局の職員は、学生の皆様の学生生活の支援、学生部の職員は、学生の皆様の学生生活の支援、学生部の職員は、学生の皆様の学生生活の支援、学生部

春本番！グルメ最前線

「学生さんはお金がない」なんて言われる昨今。でもたまにはぜいたくして、おいしいものが食べたい。そんな要望に、目白の街はしっかりこたえてくれます。さぁ、お気に入りランチを探しに出かけましょう。

MUR ミュール　目白三ツ星レストラン


時間帯を問わず、注文できるオムライス

目白通り沿い、手書きのメニューがディスプレイされた看板が目に止まる。そのまま地下への階段を下ると、そこに都会の喧騒を避けるように、姿を潜わすのは、シェフの斑田の経験が存分に反映されたものとなっている。

ランチタイム（11時30分～14時30分）は1,000円、1,500円、2,000円と、各国の大使夫人から料理を学んだほどの研究家である。店内には、シェフが集めた骨董品が目に止まる。そのインテリアをはじめ、アンティーク雑貨がズラリ。まるで欧風創作料理のお店、「ミュール」である。

店主の野坂さんは、イランとナイジェリアの在日本大使公邸料理人。在任中に